

附上之前向日本人介紹台灣廟宇繪畫的文章。

台湾の寺絵

台湾は湿度が高いため、お寺は日本のように木で作ったままなら、おそらく数十年も持たないので、木の上に漆などの絵具で華やかな飾りを描き、それによって木も守るという方法を取り入れています。

台湾の寺絵師は最初全部中国大陸からきた絵師でした。大陸沿岸地域から台湾に来た「唐山師匠」と呼ばれた絵師たちは、自分の仕事を奪われたくないため、決して弟子を受け入れませんでした。当時台湾の人も何も考えないでひたすら「唐山師匠」に頼っていました。しかし、1985年に台湾が日本の領土になってから、「唐山師匠」は前と同じように自由に台湾に来ることができなくなりました。そのためやむを得ず、台湾人は絵の勉強を始めました。

お寺の飾り絵には主に二種類があります。一つは入り口の扉でお寺を守る、鬼など悪い物を退治する意味をつける門神です。もう一つは壁や天井に描かれた壁画で、参拝の人々に「良い人になさって下さい」という願いを込めた物語が表現されています。

お寺の門に描いた門神は種類だけではなく、大体仏教と道教を分けて、違う門神を描きました。道教のお寺は、正面の門はお寺を守る武将で、他の門は昔の文官、宦官、女官など、お寺に祀る神様によって選びます。仏教のお寺は印度の神様の物語からの人物で、鬼を退治して、仏法および仏教徒を守る護法善神になります。

お寺に描いた壁画には、大体忠誠、親孝行、節操、仁義に関する物語とが、地獄の絵とが、仏教の物語を題材にしたものです。数は少ないですが、花鳥山水もあります。

機会があって、台湾のお寺に行った時、是非参拝だけではなく、寺絵にも、じっくり楽しみてください。